

第 4 次新潟市食育推進計画 数値指標整理

第 3 次計画から引き継ぐ指標		
	第 3 次計画の指標	第 4 次計画にむけた検討
食 を 楽 し む	「食（食事や食習慣）」に関心を持っている市民の割合（20歳以上）	<u>「食」を楽しみと思う市民の割合（18歳以上）</u>
	「共食」が大切だと思う市民の割合（20歳以上）	1日の全ての食事を1人で食べることがある市民の割合（18歳以上） ※ 1人暮らしや仕事等により、「共食できない」環境あり。 「共食」は家族に限らず地域や友人でもよい。
	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加（20歳以上） （1週間の間に朝食または夕食を家族と一緒に食べた回数）	
	農林漁業体験を経験した市民（世帯）の割合の増加（20歳以上）	【継続】農林漁業体験を経験した市民（世帯）の割合の増加（18歳以上） ※ 農との距離が近い本市の特長を生かし、農林漁業体験を通じ、楽しみながら関心を高めるという視点で継続。
	農業体験学習を実施している小学校の割合（市立小学校）	アグリ・スタディ・プログラムを体験し、本市の農業への誇りが醸成された小中学生の割合 ※ 農業体験学習を実施したことによる成果指標とする。
	新潟市食育マスター派遣事業の実施回数	・食育マスターから食育を学びたいと思う市民の割合（18歳以上） ・食育マスター等を活用し、食育活動に取り組んだ団体数
	食育の推進に関わるボランティアの数	
食 つ く 健 康 を	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合（20歳以上）（20歳代・30歳代）	主食・主菜・副菜の意味を知っている市民の割合（18歳以上）（子育て世代）
	朝食を欠食する市民の割合（20歳代・30歳代）（小中学生）	【継続】主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合（18歳以上）（子育て世代）
		【継続】朝食を欠食する市民の割合（子育て世代）（小中学生）
食 を 大 切 に す る	身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合（20歳以上）	【継続】身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合（18歳以上）
	食べ物を無駄にしないよう行動している市民の割合（20歳以上）	【食品ロス】を減らすために取り組んでいる市民の割合（18歳以上）
	学校給食における地場産物を使用する割合（食材数ベース）	【継続】学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース） ※ 学校給食に地場産物を活用することで、地産地消や食文化等への理解を深める取組を推進する。
		【新】学校給食を活用した、食に関する指導の取組回数（小学校）
	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思う市民の割合（20歳以上）	食文化（郷土料理や行事食）を受け継ぐことを大切だと思う市民の割合（18歳以上）
地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを受け継いでいる市民の割合（20歳以上）（20歳代・30歳代）		

次計画へ引き継がず、関連計画として位置づける指標

No.	第3次計画の指標	備考
2	生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や、減塩、野菜の摂取などに気をつけた食生活を実践している市民の割合	健康づくり推進計画（第3次）「スマイル新潟ヘルスプラン」において「適切な量と質の食事をとる人の増加」「適正体重を維持している人の増加」が指標として設定されているため、そちらに位置付ける。
5	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断することができる市民の割合	R1時点で20～30歳代において目標達成。食の安全基本方針（第3次改訂）において「食の安心安全確保の取り組みを知っている市民の割合」「安全な食生活を送るために自ら食品選択等の判断をしている市民の割合」が指標として設定されているため、そちらに位置付ける。

次計画へ引き継がず、関連計画としても位置付けない指標

No.	第3次計画の指標	備考
10	拠点施設等における食育の実践を促す事業の実施回数	アウトプットである実施回数であるため省く。
12	ゆっくりよく噛んで味わって食べる市民の割合	H30時点で目標を上回る水準に達したため。